

岐阜県立岐阜商業高等学校

校長 村山 義広
学校住所 岐阜市則武新屋敷1816-6 電話 058-231-6161

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜商業高等学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年10月30日（水）14:00～15:30
- 3 開催場所 岐阜商業高等学校 校長室
- 4 参加者 委員 大友 克之 朝日大学 学長
大野 裕美 早田公民館 元館長
富田 洋子 全日制PTA特別活動委員長
学校側 村山 義広 校長
奈波 宏和 副校長
早矢仕 賢治 教頭
石川 勝久 商業教育推進部長（代理）
後藤 敦史 教務部長
糸井 統 生徒指導部長
大池 須美子 進学指導部長

5 会議の概要（協議事項）

- (1) 学校長挨拶
- (2) スクールミッションについて（全日制・定時制）
- (3) 各分掌より報告
- (4) その他

【全日制】

意見1：スクールミッションの内部要因の弱みのところで、中学校の部活の地域スポーツ化については、県立岐阜商業高校だけではどうにもならない問題であると思うので、外部要因の脅威として考えた方がよいかと考える。また、スクールミッションをどちら側の立場で読むかということと考えると、教育を提供する側の立場からのものであると読むことができる。そうすると「予測困難な時代を生き抜くため、」という部分の主語は生徒であるため「予測困難な時代を生き抜くための」と読んだ方がすっきりするのではないかと考える。あと、構成別に色分けして表示しているのはよいと思う。

意見2：中学部活の地域スポーツ化の話をするとう令和7年度から岐阜市の中学校の部活動が完全に地域に移行するという話をうけて、中学校によっては、子どもたちを大会に出場させるために外部コーチを探すのに苦労しているという話を聞いた。急に地域に移行するといってもどのクラブに行ってもよいかわからない現状があるようである。校区によっては、早い段階から地域スポーツクラブを立ち上げて、学校の部活動と組み合わせ、うまく取り組んでいる地域もあれば、そうでない地域もあると聞いている。将来の子どもたちにとっては厳しい時代になると感じている。

意見3：教務部のアンケート結果から探究活動に関して、達成感があまりないようだが最近、大学側もなぜ、大学受験に探究学習の評価をもっと入れてくれないのかと言われることが増えてきた。それだけ教育現場においては、探究学習が学習指導要領に入り、力を入れているということである。今後は成果が見えにくいこの探究学習をなぜ学ぶのかという目的意識や達成感を生徒に感じさせることと同時にその土台となる基礎学力の向上も併せて図っていかねばならないと考える。また、探究学習はグループ単位で進めていく場合が多いと思うが、同じグループ内における

個々の熱量やレベルを同質に引き上げ、誰もが同様のプレゼンができるところまで指導していけると大学入試や就職試験につながっていくと考える。

⇒今年度から本校では一人ひとりに卒業論文を作成させている。今、先生がおっしゃられたとおり、昨年度の大学の推薦入試において、探究学習の成果を話す際に表面的で浅い内容では通用しなかったという反省があった。やはり個々でしっかり追求し自分の意見をしっかりと表現できるように指導していかなければならないと感じた。

意見4：県岐商の卒業生は様々な方面で活躍されている。みんな一本すじが通っていて、ブランド意識を強くもっておられる卒業生が多い。そのような意識は先生方によって、在学中から培われているのだと感じている。また、地域の文化祭にも県岐商の生徒さんたちに協力いただくことになるがよろしくお願ひしたい。

意見5：最近、闇バイトのことが保護者のなかでも話題に上がる。安心だと思われているサイトでも闇バイトが潜んでいることがあり、高校生たちはその見分けがつかないことがある。SNSの情報モラルの話はよくしていただいていると思うが、闇バイトに対する危険性について、注意喚起等の指導もしていただけるとありがたい。

⇒薬物乱用や闇バイトの危険性については、タイミングをみながらその都度、指導は入れているが、また改めて資料等もそろえてしっかり指導する機会をつくっていききたい。

【定時制】

意見6：2行目の自らの適正、興味・関心を見極めるとあるが、見極めるのは本人なのか、教育者側なのか、見極める人が誰なのかがわかりにくい。先程の説明のなかで、定時制における自己有用感であるとか自己存在感などが重要であるということは理解できたので、生徒自身によって見極めることに期待しているのだと推測するが、そのあたりも踏まえてもう少しこの前後の文書の着地点がはっきりするとわかりやすいと思う。また、生徒が校歌を歌わないということであるが、全日制の高校野球をはじめ、様々な大会の応援であったり、吹奏楽部の定期演奏会など各種イベントなど学校行事に巻き込んでいけるとよいのではないかと考える。

⇒定時制の生徒も夏の高校野球の応援では見かけたこともあるので、全く全日制とかかわりがないわけではないが、就労の関係もあるので難しい生徒もいるが、そうでない生徒は時間さえあれば、全日制的イベント等に参加させていくことは可能であると思う。

意見7：知り合いで長年子どもが家庭に引きこもっている方がおられるが、そのような不登校の子どもたちへの対応について、定時制ではどのように対応されているか。

⇒校内教育支援センターの整備促進ということで、スクールカウンセラーやスクール相談員を配置している。生徒も保護者も希望があれば活用できる体制をとっているが、保護者はお仕事等の関係でなかなか来校される方は少ない。

意見8：最近、通信制の学校が増えたのではないと思う。通学パターンや学校の特色などもいろいろ多様化しているが、その分定時制に入学してくる生徒は減少しているのか。

⇒コロナ禍の影響もあるが今、中学生の通信制への進学率は年々増加傾向にあり、定時制は減少傾向にある。ただ、通信制は人とかかわりであるとか、つながりという部分では課題があるのかもしれないが、幅広い様々な子どもたちに学びの機会を提供、継続できるという点ではよいことであると思う。

⇒毎日、定時制に来て仲間とともに学ぶということ自体、通信制とは違い、コミュニケーション力を身につけることにつながるの、定時制で学ぶ意義は大きいと感じている。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、スクールミッションの策定案に対して多数のご助言をいただいた。また、学校の近況を報告し、委員の皆様による種々の意見交換が行われたうえで、本校の学校運営における中間報告について、全委員から承認が得られた。

さらに、大学、地域、PTAなど様々な分野から多岐にわたるご提言やご助言をいただき、今後の学校教育を運営するにあたり、大変参考となった。今後の学校経営に活かしていきたい。